

# 江戸期日本図、西洋で関心

## 古河で特別展 赤水図や泉石資料

古河市中央町3丁目の古河歴史博物館で特別展「鎖国時代 海を渡った日本図」が開かれている。古河藩家老、鷹見泉石(1785~1858年)の所有品や、国内外から借り受けた貴重な資料など約60点を展示。国外に伝わった江戸期の日本地図やその変化の過程から、未知の世界だった日本や極東に対する当時の西洋人の高い関心と知的好奇心がうかがえる。会期は9月1日まで。

今展は江戸期に発行された「地理学者、長久保赤水(1717~1801年)の改訂日本図や、高萩市出身の

「正日本輿地路程全図」(赤水図)が海外に与えた影響についての最新の研究成果を、2会場12コーナーに分けて紹介。15日から都内で開かれている国際地図学会議のツアー対象にも選ばれた。

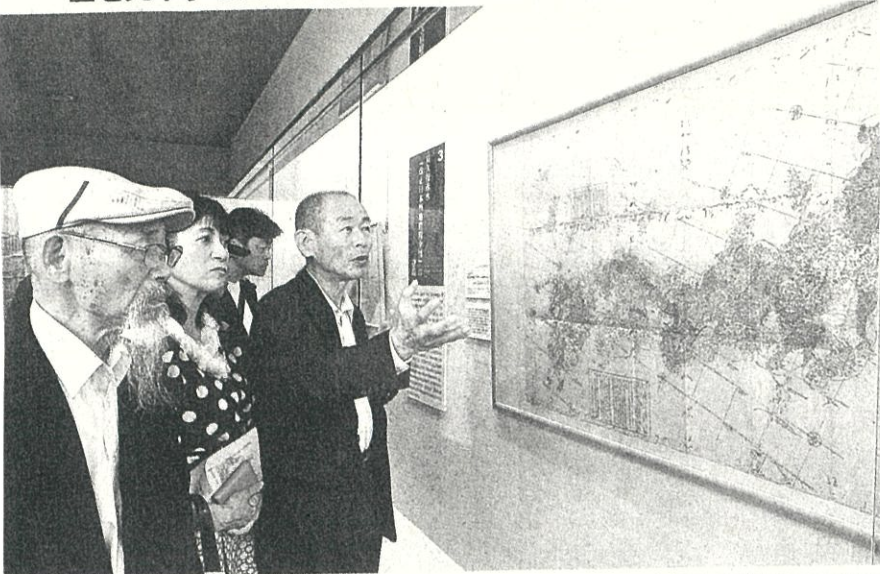
### 「赤水の偉業再確認」

高萩の顕彰会 展示見学

第1会場では、大航海時代の航海図から赤水最晩年の改正日本輿地路程全図、18世紀に欧州探検船の測量によって作製された日本列島の図までを展示。ロシアのレザノフが日本来航までの経路を示した図や資料もあり、赤水図が海外に流出した過程などを推測することができるといわれる。

第2会場では、オランダ商館長、ティツィングラが赤水図などを基に、より詳細な日本図を作製しようとした資料を紹介。古河が「フルカワ」、結城が「コフキ」と記載されるなど、オランダ通詞らの誤った地名の翻訳が欧州に広がったことが分かり、興味を引く。また、それらの研究を取

古河歴史博物館の企画展に展示された改正日本輿地路程全図を見学する長久保赤水顕彰会の会員たち＝古河市中央町



高萩市出身の地理学者、長久保赤水の功績を伝える活動に取り組む同市の「長久保赤水顕彰会」(佐川春久会長)が14日、古河市中央町3丁目の古河歴史博物館を訪れた。

展示された「改正輿地路程全図」(赤水図)や赤水の関連資料など、開催中の企画展を見学し、国内外に影響を与えた赤水の偉業を再確認した。

顕彰会は1992年に発足し、会員は407人。経緯線を記入した最初の日本地図を完成させた赤水の研究とともに、ゆかりの地を巡るウォーク大会、2017年の赤水生誕300年を記念した漫画の発行、ホームページで国内外に向けた業績発信などに精力的に取り組んでいる。

この日は会員や赤水の子孫ら24人が訪問。今後の研究に生かそうと、鷹見泉石が所有していた改正輿地路程全図や、赤水図が西洋に影響を与えた資料を注意深く観覧した。

佐川会長は「高萩市歴史民俗資料館でも現在、赤水の地図作製の過程が分かる資料展を開いている。古河と両方の展示を見て、多くの人に赤水のすごさを認識してもらいたい」と話した。